



～ 障がいの有無に関わらず、
一人ひとりが生き生きと強みを発揮し、活躍できる社会を実現したい～



●桐野氏 OSTメンバー 梅木氏 OSTメンバー



●OST 社内の様子

PwC Japan グループ

●働くことを応援する PwC Japan グループ

2016年、障がい者雇用の Office Support Team (OST) が誕生しました。「当初は3名からスタートしましたが、現在150名以上のメンバーが活躍しています。」現在に至るまでの推移を知り、着実に躍進し続けている様子が伝わってきました。その背景には、障がいのあるスタッフを雇用することを最終ゴールとするのではなく、障がいを抱えながらも一人ひとりが自分の強みを生かし、生き生きと活躍できる場を創出し続けたいという理念が実現化されていると思われます。2017年、障がいの有無に関わらず、誰もが一人の社会人として活躍できる組織を作りたいという想いで OST ビジョンが制定され、それぞれ個性を持った人たちと協働して、新たな障がい者雇用のかたちを作り、部署や会社を超えて、社会にインパクトを与えていくことをテーマに取り組んでいると話していました。今では、社内で求められるチームとして、誰もが戦力となる一員として実績を積み上げており、「調整が大変なくらい、他部署からの応援依頼が殺到しています。」と新しい変化について話していました。2018年には PwC Japan グループ共通の評価制度が OST に導入され、評価制度としてだけでなく育成のためのフレームワークとしても活用されているそうです。その影響もあり、職場定着率 94% (2021 年実績) と抜群の安定感を維持しております。

●OST メンバー 2 名にインタビュー

今回、ご活躍中の OST メンバーを代表して 2 名のメンバーより

幾つかインタビューさせていただきました。

・入社5年目 M さん (採用、研修業務担当)

【入社のきっかけ】大学卒業後、就労移行支援事業所で訓練中に PwC を知り、スキルよりマインドを大切に考えているという理念に共感しました。

【働きやすさについて】有給休暇が取得しやすいこと、業務環境が整備され働きやすいと感じます。マニュアルや工程表、情報の可視化、相談先が明確である点です。

【やりがいについて】一般枠と同様の評価制度で、公平に評価を受けられ社会的に認められていると実感でき自信が持てること。

【今後の展望について】企業と当事者そして支援機関との連携があることで更に発展していくと思います。

・入社2年目 H さん (コード開設業務担当)

【入社のきっかけ】特性を理解してもらい、様々な仕事に挑戦できる OST に魅力を感じたことでした。

【働きやすさについて】PwC は Care の精神、思いやりの意識を大切にしています。思いやりを受け取った人は次の人へ思いやりを与えるという関係性が安心できます。

【やりがいについて】OST には様々な仕事が存在し、様々な働き方が選択できること。

【今後の展望について】ここで働く私たち OST メンバーが障がい者雇用に良い変化を与える役割になりたいです。

※取材時に感じたことは、お2人共、充実感に溢れ生き生きと話されていたこと、PwC のソフトな面に魅力を感じているところが共通しているように感じました。

● D & I から I & D に推進活動名称を変更

多様性が本来の力を発揮するためには、異なるスキル・経験を持つ人材が集結し、それぞれの違いが新しい価値を創出するためのインクルージョンがより重要であるということに気づき、推進活動の名称を D & I から I & D に変更されたこと、理由についてお話をいただきました。さまざまな価値観を受け入れ、多様な人材が活躍するファームであり続けることを目指し、一人ひとりがお互いに尊重し合い、ありのままの自分を周囲から受け入れられる「インクルージョン」を PwC は常に念頭に置き推進活動に取り組んでいます。その一つに、2009 年より障がい者アスリート支援プログラムを導入し、長期に渡り柔軟な働き方ができる環境提供の支援、2018 年には地方在宅勤務者の採用を開始し、地方の雇用創出に積極的に取り組んでいます。当時は在宅勤務に不安な声もありましたが、誰もが働く上で必要なことを行っていくことで、障がい者の在宅勤務についての認識を一変することができたと話しております。現在、39 名が自宅で安心して執務に取り組み活躍されているそうです。その他、北海道の高校生のリモートによるインターンシップの実施、デジタル技術による障がい者の可能性を最大限に発揮できるように開発に取り組んでいます。「地域性や障がい特性など、さま

ざまな事情から就労の機会を得ることが難しい方々が存在する社会的課題の解決」のため、「PwC のインクルージョン」は様々な側面に対応できる柔軟性が強みとなっており、更に発展していくことを期待したいです。

● 取材を終えて

今回取材させて頂き、PwC の風通しの良さを実際に感じる事ができました。取材時に梅木様や桐野様、OST メンバーの和やかな雰囲気やそれぞれの伝えたいことが明確である姿を通して、地道に着実に基盤を作り上げてきている達成感が伝わりました。桐野様より、「たとえ転職をするとなっても自信を持って次に進めるような市場価値の高い人材育成やキャリア開発をしてきたい」と前向きな姿勢で取り組まれていること、梅木様の「働き方も、人生の歩き方も、みんな違って良い、PwC Japan グループとして地道な一歩を重ね続けていく」という言葉が印象的でした。

(インタビュー・構成:麻野 由紀子)

【会社概要】

PwC Japan グループ 所在：東京都千代田大手町 1-1-1
世界152カ国、約328,000人以上のスタッフを擁する世界最大級のグローバルサービスネットワークである監査と補償業務、コンサルティング、M & A に関するアドバイザリー業務、税務、法務など幅広い分野で専門性の高いサービスを提供し続けている。PwC Japan グループは、日本における PwC グローバルネットワークのメンバーファームおよびそれらの関連会社の総称

EVENT × NEWS

「就労支援ネットワーク」 就労移行支援事業所 ルミナス秋葉原 (千代田区岩本町三丁目4番1号 トリキンビル2階) ～ひとりひとりの「働きたい！」に寄り添う～

「ルミナス秋葉原」の特徴、それはシノケングループ各32社をはじめ、豊富な実習先、就労先を準備していることです。一人ひとりの適性や希望に応じ、さまざまな業務を体験して「自分の得意」を見つけることができます。一般企業で20年以上勤めてきたスタッフが一番大事だと感じてきたこと、それは「コミュニケーション」です。「ルミナス秋葉原」では、コミュニケーションのプログラムに力を入れ、就労後も様々な対応ができるようにしています。スタッフ7名が全て常勤であり一般就労の経験者であるため、実務で培った各業界の特徴を含めたアドバイスも行うことが可能です。「コミュニケーションが苦手」「就労することに不安がある」等、困り事があっても大丈夫です。一人ひとりにあった目標やペースで就労までの道のりをサポートさせていただきます。ちょっとした質問・相談もお気軽にご連絡ください。前向きにチャレンジし自分の可能性を広げましょう。

お問い合わせ 9:30～18:00(土日・年末年始休み)
TEL03-6686-3755 / FAX03-6685-3756
<https://www.lums.co.jp>

JR「秋葉原駅」昭和通り口より徒歩7分
東京メトロ日比谷線「秋葉原駅」A4出口より徒歩5分
都営新宿線「岩本町駅」A4出口より徒歩2分



令和4年度第2回地域交流会障害のある方の「働く」を考える ～知的障害のある方の就労と親なき後～



ビーアシスト株式会社 人財開発部長 深水 清志 氏
渡部行政書士社労士事務所 親なき後相談室 渡部 伸 氏

今回の地域交流会は2部構成で行い、第1部に就労面から見える生活の課題としてブックオフグループの特例子会社であるビーアシスト株式会社の深水氏にご登壇いただきました。就労から見える生活面の課題として加齢に伴う体の負担を考慮した業務内容の見直し、生活様式の変化についてお話いただきました。特に毎日顔を合わせる企業の職員がそのような場合の変化における第一発見者になることが多く、お金を使いすぎてしまった事例などを挙げられ、早めの気づきが大事になるとのお話がありました。第2部では、親なきあと相談室・渡部行政書士社労士事務所の渡部氏にご登壇いただき、親として残った人が困らないようにしていけるように、今のうちにできる事と、親なきあとにできることを分けて渡部氏に説明していただきました。特に親なき後のことではチームで支援できる事が障害のある方にとっては、大切であるとお話がありました。

就労支援のお問い合わせ

電話：03-3264-2153 FAX：03-3556-1223
E-mail：chiyoda.syuroushien@city.chiyoda.lg.jp
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所3階

発行：千代田区障害者就労支援センター 2022年度第58号(令和5年1月16日発行)
取材協力：PwC Japan グループ
毎回、働く障害のある方やその職場を紹介していきます。次号もご期待下さい。

